

令和8年度 新たなまちのかたちに関する意見交換会 直地区 協議記録

日 時	2026年7月27日（月） 18:00～19:40
場 所	直小学校 体育館

参加者：33名

【開会のあいさつ】

高井区長会長：

能登半島地震から2年半余り経ったが、復旧、復興はまだまだ進行中であり、皆さんの中には、この先どうなるのか不安を抱えている方がたくさんいると思う。本日はそのような中、未来に向けた直地区の新しいまちづくり計画の説明を受け、質問や意見交換を行う機会である。この先、市と県と一緒に、珠洲市をよくしていきたいと思う。皆さんの意見をお願いしたい。

番匠市議会議長：

本日は行政の方から直地区のまちづくり計画を説明されると思うが、私たちはこの珠洲に残って生活している。また子どもたちや孫の世代がこの地域に戻ってきて、また住みたいと思うようなまちづくりに我々がしていかなければならないと改めて感じている。そのためにも皆様の忌憚ないご意見が必要である。時間の許す限り意見交換をしたいと思う。よろしくお願いします。

泉谷市長：

発災から2年半余りが経過した。なんとか3月5日には馬縞町で復興公営住宅として初めてとなる起工式を執り行うことができた。応急復旧から本復旧、そして復興へと少しずつ進み始めている。直地区の「新たなまちのかたち」をどうしていくかについて、今年度初めてとなるが、改めて皆様方からご意見を伺い、しっかりと皆さんと共に直地区の再生と復興を成し遂げていきたいと考えている。何卒よろしくお願いします。

まず一枚ものの資料をお出ししているが、復興公営住宅は、直地区においては、天神町で予定戸数50戸としている。西中町でも予定戸数50戸で進めたい。6月ひと月をかけ入居申し込みを受け付けた。調整中であるため明確には答えにくいですが、特に天神町は、道の駅「すずなり」にも近い人気が高い。しかし、この地域の皆様が確実に入居できるように、優先枠を設けて対応したい。地域の皆様はこの復興公営住宅から漏れることがないよう進めたいと思うので、ご安心いただきたい。

また、珠洲市として、飯田高校の下に屋内型の子どもの遊び場を整備したい。現在、基本計画を終えている段階で、これから進めていきたい。

あわせて、消防団直分団の待機所は場所を変えて新築という方法で進めている。残念ながら入札が不調となったため、着工に至っていないが、できるだけ早く整備できるよう進める。

資料の中でも出ているが、狭隘道路、狭いところは市道であるので、拡幅をしていきたいと考えている。直地区全体、特に内浦街道沿いの被害が甚大で、水道、下水道、道路、排水路などをひとつ一つ発注しても、なかなか進まない。宝立町、飯田町、正院町、蛸島町に加えて、野々江町についても一括発注をすることで、インフラの復旧を加速していく。これについては、9月上旬に入札が行われるため、もうしばらくかかるが、発注が定まれば速やかに一括してインフラの復旧を進めたい。

【資料説明】

- ・地区別まちづくり計画について

【意見交換】

参加者：

それぞれの公営住宅の説明があったが、一番知りたい、野々江町西中町の住宅に関する説明がなかった。50戸というのは分かったが、どういう形式なのか教えてほしい。

珠洲市：

西中町については、共同住宅で約 50 戸を想定している。現在、測量業務は完了しており、この後、入居者の調整をし、年内には発注したい。発注方法は民間買取型、いわゆる民間の事業者が応募し、その中でより良い会社を選び落札予定者として契約したい。年内には発注したい。

契約してからおよそ一年半から二年程度で完成する。天神町についても、目標は令和 9 年 4 月に着工し、令和 10 年 5 月、約 1 年 1 か月で完成する見込みであり、同等の期間を要すると思われる。

市長：

イメージは天神町とあまり変わらないのではないかと。

珠洲市：

イメージは天神町と似たような形になるかと思う。

参加者：

出来上がってからのことについて質問する。復興公営住宅ということで、3 年間は無料というように聞いている。それで 4 年目から賃貸料を取るという形になるかと思う。もし今回 3 階建ての 3 階に部屋が決まったとして、4 年目に足を悪くして杖歩行など不自由になってしまったとする。ちょうどその時期に 1 階が空いた場合、体の都合ということで部屋の変更は可能なのか。

珠洲市：

3 年間の家賃無償の件については、石川県の事業であり、報道発表してから担当者の方で調整している段階であるが、3 年間無償ということは決まっているそうである。部屋の住み替えについては、現在明確にできるかどうか申し上げにくいですが、空いていれば変更することは可能だと考えている。現段階で、はっきりと「住み替えができる」という明言は控えさせていただく。

参加者：

復興公営住宅はそれぞれの会社が受注して建てる。ある場所は積水、ある場所は違う業者ということになると思う。建物や設備の基準などは会社によって全然違うのか。仮設住宅はそれぞれ違っている。

もう一点、抽選をする場合、抽選の方法を皆さんが目に見えてわかるような形を是非とってほしいと思う。

珠洲市：

一点目についてであるが、請負される業者はそれぞれ違うが、我々が提示している設計標準書というものがある。それに基づいて建てるので大きな差はなく、その設計標準に従って建設していただくので、例えば仮設住宅でいうと、プレハブ型と木造型とそれぞれ違うと思うが、今回発注している復興公営住宅については大きな差異はない。

二点目の抽選方法について、入居申し込みの際に、第一希望から第三希望までお聞きしている。極力抽選はしたくないため、第一希望で皆様方がそれぞれ希望される団地に入れるように調整はしたい。もし第一希望が叶わなくても、第二希望、第三希望の中で希望されている団地に入居していただくことができるよう 9 月、10 月に入居調整をしていく考えである。

それでも希望する団地でない場合は抽選による。その抽選は公開で行うので、勝手に「あなたはこの団地ですよ」と決めることはない。これから 9 月、10 月にかけて申し込まれた皆様一人ずつ、もう一度聞き取り調査などを行うので、もうしばらくお待ちいただきたい。

市長：

抽選に際して、私が最初に申し上げたとおり、地域の皆さんは優先枠としてあるので、地域の皆さんが抽選から漏れるとか、全く違うところに行くということは無いようにしていく。

参加者：

復興公営住宅の話が中心になるだろうなと思っていたので言いにくいですが、私も遅ればせながら家を建てた。いろんな報道を見ると、復興公営住宅のニュースが多い。そして先ほど話があったように、3 年間家賃無償は良いことであると思う。それだけ頑張っていただいている県や市に対して、そういう配慮をいただいていることは素晴らしいが、私たちのように新築で建てた方にも何かあればいいな

とも思っている。そういうような計画があるのか、それからそういう要望が出てきているのか、聞かせていただきたい。

市長：

令和6年の震災が発生したその年の秋ぐらいに、公費解体が軌道に乗り始めた。その時に私も、このままでは珠洲を離れる方がものすごく増えるのではないかという思いもあったため、珠洲市独自に新築に際して200万円の補助金、子育て世帯の方には300万円の補助金を設けた。

石川県としては、個人財産に補助することは難しいということであったが、いろいろ工夫をし、珠洲市が新築への補助制度を設け支援をするのであれば、珠洲市の財政そのものを支援するということで、1件当たり200万円上限の2/3を石川県から珠洲市に補助していただいている状況である。

3年間家賃無償にするのであれば、自力で再建した方に対し珠洲市として200万、300万の補助を行い、県としてもそれに対しての財政補助をしていただいているものの、さらなる上乗せの支援を珠洲市にいただければ、200万、300万の上限を引き上げることができるということを、県に申し上げているが、なかなか難しいという答えである。自力再建された方に、間接的に石川県として、1件当たり200万の2/3の補助金が入っているという認識である。

参加者：

復興公営住宅について、要望として言わせていただく。野々江の場合は、暮らしを支えるエリアの中に珠洲市総合病院が入っているの、総合病院の今後のことについて願います。

2026年7月24日（金）に能登空港の会議室で行われた、「いしかわ移動知事室タウンミーティング」に参加してきた。そこで初めて知ったが、今の構想の段階では産科が新病院にできるかどうかかわからない、また珠洲市総合病院と輪島市、能登町、穴水町の4つの病院がサテライト病院という形になり、昼間は医者がいるが夜間とか土日にはいない形になる。私の考えでは、珠洲市は新病院が建つ能登空港から非常に遠い。珠洲から45分間かかり、穴水からは18分程かかると提示されていた。これは夏期の時間であって、冬期はもうちょっと時間がかかると思う。

そのため、穴水などの病院はこのサテライト病院の形での縮小でいいかと思うが、やはり珠洲総合病院の場合は救急外来を置いていただいて、緊急に処置が必要な病気、怪我、例えば脳出血、重篤な熱中症、心臓病等の方には、珠洲市総合病院で、一度初期的な治療をしていただきながら、新病院へ移動するというような形にしていきたい。新病院ができて救急外来が珠洲からなくなってしまうと、夜間に急に病気になっても、どうにもできない。土日はどうなるのか、本当に不安である。また、これが20年30年続くことになる。そういうところに安心して住めるのか。珠洲は遠いので、救急外来を是非残してくださいと県と知事に要望していただきたい。要望の仕方はいろいろあるのだろうが、市議会議員の方が中心となり地域の人たちの声を集め、泉谷市長さんとともに県の方へ陳情に行っていただければと思う。これはまだ新病院の構想の段階なので、泉谷市長が在籍している4年の間にぜひお願いしたい。遅くなってしまうと病院を建設し始めるので、是非よろしく願いたい。

市長：

病院の件であるが、ご発言いただいたように、能登空港の近辺に統合の新病院をつくり、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町のそれぞれの自治体病院については、サテライトとして残すということである。サテライトとして残るのは内科や総合診療科となる。例えば足の骨折をした場合、自分で運転して能登空港まで行くのはなかなかできない。誰かに送ってもらうにしても、相当時間と手間がかかってしまうので、公共交通機関についても、併せて見直していくが、整形外科は残しましょうということである。人工透析も残す、もう一つ、歯科診療科が総合病院にできたが、これも残しましょうということである。しかし救急外来等々については、統合病院に集中させましょうという話になっている。

今、浜田院長が脳神経外科をされている。他の輪島、穴水病院に脳神経外科はない。浜田先生もずっと10年先、20年先まで現役で頑張っていただければよいが、そういうわけにもいかない。浜田先生がいなくなった時に、金沢大学の大学病院から脳神経外科の先生が珠洲市にだけ、来ていただけるかという何の保証もない。そうすると、脳神経外科一つとっても、奥能登二市二町に誰もいなくなる。誰もいなくなって、救急車あるいはドクターヘリで、夜や土日に七尾なり金沢まで行くのか、それと比較すると能登空港の方がいいということになる。

5年先、10年先、20年先の珠洲市の医療を考えた時に、身近な医療については総合病院がある。また、高度な医療については、七尾や金沢まで行かなくても、能登空港まで行けばあるということで、維持していくしかないのかなと思っている。

経営についても、今、珠洲市総合病院は珠洲市として、病院会計として経営しているが、統合病院については一部事務組合ということで、石川県と奥能登2市2町でお金を出し合って経営しましょうということになるため、病院経営の財政的な面としても、より強固なものになるのかなという思いでいる。

おっしゃる通り、市民の皆様が医療に関して不安を感じることをないように、どういう機能を残すかといったことはギリギリまで考えていきたい。将来的にサテライトである珠洲の病院も輪島の病院も、能登空港にできる新病院も同じ会計になる。同じ会計の中で、どのように医療を維持していくか。そしてそのトータル、五つの病院をどう持続可能な形で経営していくのか。さまざまな面で課題が多くあるが、皆様が安心して暮らし続けられるようにしっかりと考えていきたい。

参加者：

新病院について市民の意見を聞く機会は、この後、珠洲市では用意されているのか。

市長：

今は県と各自治体、二市二町とでやり取りしている。まずは病院をどのように整備していくかという話である。

参加者：

それでは、珠洲市に住んでいる方の声、昼間に45分かかったのが、冬場は救急車で運ばれるとなると、とても45分間では行けず、時間がかかる。そういう中で救急車で運ばれていく方の不安の声は、どこで発すればよいのか。

市長：

現在、新病院を整備するにあたって検討会も設けられている。私はそこにも参加をしているし、分科会には副市長も参加をしている。珠洲市の病院の院長をはじめ、関係の職員が意見を交わしている。珠洲市の病院をどうするか、統合病院をどうするか、あるいは輪島市、穴水町、能登町の方でもそういう話でいろいろと議論をしている段階である。

参加者：

穴水は救急車で新病院まで18分しかかからないため、サテライト病院という形になって、救急外来がなくてもよいと思う。珠洲市の場合はやはりものすごく時間がかかるので、珠洲市の病院は特別に救急外来を設けたサテライトにするなど柔軟な考え方もあり得るのか。

泉谷市長：

統合病院に救急医療を集中させようとしているところに、珠洲市でもそれを機能として持たせようとなると、会計が一緒になるので、おそらく輪島市や能登町も救急機能は持たせたいということになるだろう。救急医療は相当なコストがかかる。全体としてお金が持つのかどうかというところが問題となる。

お金のやりくりだけで済むならよいが、救急外来に対応できる医師がこれから先20年先も維持できるのかということが大きな課題である。珠洲市で救急医療をなんとか単独で負担を増やしてでもやろうと思ったらできるかもしれないが、それを受け持つ医者がいらっしゃるかどうかなというのは何とも言えない。救急医療は受け入れが可能だとしても、そこにドクターがいなかったら何もできない。そういうようなところを含め、これまでの期間、あるいはこの先のことを考えた時に、救急車やドクターヘリでの搬送となるが、ドクターヘリも夜は飛べないので、何かあった時に七尾や金沢まで行くことを考えれば、まだ能登空港の方がいいのかなというような話になっている。

今は珠洲市で脳出血、脳梗塞を患っても、なんとか総合病院がある。しかし輪島、門前、穴水、宇出津の方で脳出血や脳梗塞となると、おそらく七尾まで走っている。今は浜田院長がいらっしゃるので本当にありがたいが、先々のことを考えると、珠洲も七尾まで走るのではなく、能登空港のところにあるという方が安心できるのかなという思いがある。

参加者：

この場合は病院のことについて議論する場ではないが、今の状況をお話ししていただいたので、現状は分った。

市長：

本当にいろいろと難しいが、できるだけ医療を維持していきたいという思いである。

参加者：

ありがとうございます。

参加者：

今回の震災で空き家が解体され、更地が多くあると思うが、これを今後どうしていくのか。例えば、国に買っていただいて、国有地とするとか、飯田の中心地から離れた人たちをそこへ誘導するような形をとるのかも含めて伺いたい。

もう一点、道の駅「すずなり」について、ここは珠洲のバスの発着地点で、最近は大形バスも1日1、2台は止まっている。買い物をして、「すずキッチン」で食事をして帰っていく。せっかく来ているので、その方々をいかに珠洲で滞留させるのかについて考えを伺いたい。例えば、珠洲焼の簡単な体験工房をその付近に設けることや、飯田町ではいろいろ事業をやっているが結びつけて一つの回廊をつくるような、飯田町周辺を盛り上げていく方策が考えられるかどうか伺いたい。

泉谷市長：

観光の再生も図らなければならない。これから各地区が再生していく中で、地域経済を高めていく取り組みは、それぞれに必要なようになってくる。宝立は宝立、飯田は飯田、蛸島は蛸島といったように、様々な形で地域経済が高まるように進めなければならない。各地域に応じて対応していかなければならない。

「すずなり」の売上は昨年度過去最高だったそうである。この地域に「すずなり」があるということ、加えて、「今行ける能登」ツアーなど、珠洲市の観光交流課も頑張っており、多くの方が来てお金を落としているのは、一生懸命取り組んでいる結果でもある。ちょうどポケモンの取り組みも進んでいる。より多くの方にお越しいただき、来訪だけでなく経済効果に結びつく取り組みを、商工会議所やいろんな機関、団体、業種の方々と話し合いながら進める必要がある。

更地の有効活用についてはなかなか難しい。東日本大震災では津波でやられたところを居住危険区域として国が買い上げ、防災公園や芝生広場を整備したほか、野原となっている。今回は早い段階でそういうことはないと言国が明言している。国が買い上げることはないと思う。珠洲市では不動産仲介業者が限られているが、なんとか皆さんのやり取りが進めばよいと思う。それに対して珠洲市が何らかの支援ができればよいと感じている。いろいろと考えていきたい。

参加者：

住宅の復興もよいが、併せて道路の側溝についてである。現在の状況をみると影響なさそうなところもある一方で、ガタガタで危険な箇所も多い。去年計画を発表されたが、それにとらわれず、なるべく早く復旧してほしい。強い要望としてお願いしたい。

市長：

道路もそうだが、側溝も相当傷んでおり、雨の際にうまく流れない、勾配が変わってしまったなど、いろいろある。先ほど冒頭にも申し上げたが、道路や側溝、その下にある水道・下水道をまとめて、これから発注する。野々江町と宝立・飯田・正院・蛸島の5地区で行う。9月上旬に入札し発注できれば、そこから速やかにエリアとしてインフラ復旧を加速したい。飯田町は飯田町で一本で発注、野々江町は野々江町で一本で発注といった形で、規模の大きな事業者と契約して進めたい。個別にそれぞれやろうとしても施工業者の手が回らず進まないため、その方向で進める。

参加者：

小学校が統合する方向で動いているようだ。飯田高校は大きく定員割れしている。他の市町村は高校にすごいバックアップをしており、制服無償化、バス運行無料化、能登高校は塾など、支援が手厚い。小学校を合併するのであれば、この際、小・中・高の連携学校という形も一つの手ではないか。例えば部活でも、小学校から力を入れている部活があり、それが小・中・高とつながれば、活気も違ってくると思う。

市長：

飯田高校の定員はそれほど割れないように、存続・維持に向けて、飯田高校に通う生徒の定期券、交通費の補助は行っているが、それでも定員が割れてきている。前知事の話ではあるが、石川県として奥能登の高校は存続させると明言しており、その方向性は変わらないことを願っている。

小・中学校のあり方については、6月30日に検討会を立ち上げ、できるだけ速やかに結論を見出したい。珠洲市全体で小学校が1校だけ、中学校が1校だけ、極端に小中一貫校が一つだけとなると選択肢がなくなるため、それは良くない。宝立小中学校を残すべきか。大谷小中学校は児童生徒が4名しかいないが、地域の皆さん、保護者、児童生徒が残してほしいということである。距離的なこともあり、大谷小中学校を残すべきかと考えている。その上で、宝立小中学校をどうするか、三崎の小学校と中学校をどうするかを論点として議論を始めている。

場所については、緑丘中学校は老朽化が進んでおり、中学校として残すとしても建て替えが必要。では、小学校をどうするかとなると、緑丘中学校の敷地内に小学校も新たに建てるのか、近辺で新たな用地を取得して小学校を新設するのもも含め議論を煮詰めていきたい。

いずれにせよ、一昨年に珠洲市全体で出生が35名、去年は20名であり、そのお子さんが小学校に上がるまでに整えていかなければならない。迅速に答えを見つけ、設計や議論を並行して行い、早めに取り組みたい。

参加者：

個人的な復旧の質問である。地域スポーツクラブに関わっており、健民グラウンドの全天候型トラックを作っていただき感謝しているが、地震で直線部分に凹凸があり、幅跳びの助走路、踏切部分も被害が酷い。子どもたちは大会に向けて練習が必要で、凹凸があってもそこで練習している。以前、直していただけると聞いていたが、いつ直るのか。

もう一つ、グラウンド・ゴルフ仲間からの依頼で、蛸島のグラウンド・ゴルフ場の元気の湯側のトイレが使えず、特に老人のスポーツなので大変な思いをしている。いつ直るのか。

市長：

グラウンド・ゴルフ場の元気の湯側のトイレの復旧については、多くの要望をいただいております、できるだけ早く直したい。しかし、構造が複雑で、トイレの下水管が一旦元気の湯に入り、元気の湯から下水管に入っているようだ。現在、元気の湯が機能していないため、直接下水管につなぎ直す必要があるが、工事が進まない状況である。先月か先々月に早急に対応せよと指示しているが、それでも9月くらいになると聞いている。寒くなる前に完了するようには思っている。

陸上競技場の全天候型トラックについても、早く復旧するよう指示している。

珠洲市：

緑丘中学校下の市営グラウンドの100メートル走路については、発注に向けて準備を進めている状況で、もう少し時間をいただきたい。

鉢ヶ崎のグラウンド・ゴルフ場の元気の湯のトイレについても市長の説明の通りだが、設計は既に終わっており、施工業者が決まれば管路の埋設を進めたい。

市長：

現段階で発注ができていれば完成時期を言えるが、まだその手前の段階であり申し訳ない。できるだけ早く復旧したい。復旧が進まないようであれば、移動式のトイレカーを持って行きたいと思うが、直公民館の修繕がまだ終わっていないのではないかな。

珠洲市：

設置できれば良いと思うのだが、トイレカーは1台、市営斎場に入っている。直公民館のトイレ等の下水配管の工事は今月中を目途に工事することになっているが、完了見込みが立っていない。申し訳無いが、トイレカーの設置はまだ先になると思う。

市長：

直公民館の工事が終われば、公民館に設置しているトイレカーをグラウンド・ゴルフ場に移すことは可能か。

珠洲市：

特に今後の使用見込みがないため、設置は可能と考えている。

市長：

できるだけ早く対応したい。

先ほどの質問で、小中高一貫の取り組みについて答えが抜けていた。高校は県立、小・中学校は珠洲市立という行政区分の問題があり、小中高を一体として動かすのは簡単ではない。

参加者：

バックアップはしているのか。

市長：

バックアップはしている。中高連絡会を教育委員会や企画財政課で取り組んでおり、学力面も含め連携していくことは進めている。

参加者：

暮らしを支えるエリアに囲われている中に住んでいるので、実感としてあるのだが、道の駅「すずなり」が大変混み合っている。地元の住民がなかなか買い物にも行けないほどで、人が賑わっていてありがたいと思う。しかし、駐車場が少し不便ではないかと感じている。くねくねとした駐車場は、皆が出にくそうにしており、よく事故を起こさないものだと見ている。道の駅「すずなり」の中の駐車場のことである。そこからくねくねと出てきて、保育所の方に出たりする。そこが少し危なそうだなと思う時があったり、子どもが歩いたりするので、道の駅「すずなり」の周辺も駐車場として使えれば、土地的に余裕があればよいと感じる。休みの日は保育所の所に停めている人も見かける。駐車禁止と書いてあるが、停めるところがないのだろう。これだけ賑わっているのに、これからも維持したいと思うのであれば、駐車場の便が少し悪いのではないかと感じている。

もう一つ、この暮らしを支えるエリアについて、以前から住んでいて何か足りないと感じるのは、福祉に関するものがないことである。野々江地区には病院があり、学校があり、子どもの遊び場があり、保育所があるが、福祉となると少し弱いと思っている。先ほど病院の話もあったが、病院の近くに社会福祉協議会のような福祉の拠点があればよいと思う。また、珠洲市のホームページで「福祉避難所」を検索すると、情報が昔のままである。「美笑苑」や、今はもう運営していないデイサービスの場所が記載され、収容人数も入っている。福祉はどうしても後回しになりがちだと思うが、珠洲市においては高齢者が多いので大事である。そこも見直していただきたい。共同での生活が不便な方が集まる福祉避難所という拠点が、この野々江地区のどこかにあればよい。もう遅いかもかもしれないが、例えば今から建てる子どもの遊び場が、被災時には福祉避難所となるような建物になればよいと考えている。検討をお願いしたい。

市長：

道の駅「すずなり」の駐車場について、敷地内の道がくねくねしているということだと思うが、あえてスピードが出ないようにしている。ご理解いただきたい。ただしイベントの時など、どうしても駐車スペースが不足するため、何とか解決策があればよい。道の駅「すずなり」が完成した後に、道路を挟んで海側の方に少しだけ駐車場を確保した。またそのような形で空いたスペースが出てくれば、検討していきたいと思う。

病院の統合と絡めて、将来的には珠洲市総合病院がサテライト化することから、病棟が空いてくる。そこを活用し様々な福祉の取り組みができないか、あるいは事務所などを移転させ、そこに医療と福祉を集約するというを考えていきたいと頭の中では思っている。

また、福祉避難所の件で、ホームページが更新されておらず以前のままだという点については、本当にお詫び申し上げる。これは明日にも速やかに指示し、変更すべき箇所は変更する。福祉避難所というのは、単なる建物ではないと思う。どこかの施設が、何かあった時に福祉避難所です、というだけでは機能しない。そのため、「長寿園」などの施設に対し、いざという時に必要な方がそこに避難できるようにお願いをし、協定を結んで対応していただいている。ただ、令和6年元日の能登半島地震の際には、そういった施設にも一般の方が避難され、スタッフの方も手に負えない状況であったため、しばらく福祉避難所としては開けない状態だったと認識している。後々の災害関連死という問題もある。そのようなことをできるだけ防ぐためにも、福祉施設のサポートは発災時に本当に大事である。能登半島地震の対応について各地から話や講演してほしいという要望があり、機会があれば必ずそのように話している。あるいは今でも全国各地から、様々な市議会、県議会の関係者が視察や話を聞きに来られているが、その際には必ず、福祉施設が非常にネックとなり、弱点になるということを伝えている。そこはしっかりとサポートしていく必要がある。

また、いざという時に、例えば珠洲のように海に面していれば、港に災害弱者を受け入れ、船でお世話ができるように、船の活用が大事だということも各所で言っている。国として、いざという時のための介護の船、災害時の介護船の建造の要望を挙げてはなかなか応えていただいていない。しかし、自治体によっては、南海トラフなどに備えなくてはならない所もあるため、民間のフェリーなどを代用できないか、協定を結んでおきたいといった動きも出てきている。また、民間のNPOや支援団体の方で、そうした船を用意したいという動きも出てきている。珠洲だけの取り組みではなく、日本全国として弱点を何とか改善していく取り組みをしていきたいと思っている。

参加者：

復興公営住宅について質問したいのだが、手続きをしてから大体どれくらいの期間で引っ越しを完了すればよいのか。

珠洲市：

復興公営住宅の入居手続きについては、復興公営住宅が完成する1ヶ月ほど前に入居者に対して案内を行い、概ね1ヶ月前には入居の段取りをし、完成後すぐに入居できるようにする。

参加者：

エアコンなどは全部自分で設置しなければいけないと思うが、完成してすぐに入れますと言われても、カーテンの取り付けなどもあると思う。そういったことを含めて、大体どれくらいの期間で引っ越しを完了すればよいのかと思う。50戸の入居者が一斉に、エアコンから何から全部手続きするとすると、かなり時間がかかると思うが、その点についてはどうか。

市長：

入居開始からいつまでに引っ越しをしないと入居の権利がなくなる、といったようなことはあるのか。

珠洲市：

そういった設定はしていない。設けていないので、ご自身のタイミングでよい。

市長：

それはご安心いただきたい。今日も少し協議してきたのだが、エアコンや照明の設置について何とかならないかと考えている。公営住宅という括りからすると、普通は入居者が自分で付けなければならない。しかし、ようやく待ち望んだ復興公営住宅への入居が開始になって、鍵を開けて入ってスイッチを押しても部屋が明るくならないというのは、いかがなものか。

また、毎年夏は猛暑でありエアコンが贅沢品なのかという問題もある。本来の公営住宅では、エアコンも照明もご自分で付けてください、ということなのだろうが、そこを何とかできないかと考えているところである。それを実行するとなると、確かに国の4分の3の補助の対象にはならず、珠洲市が財政的に負担しなければならないが、そこを何とかやりくりしながらできないものかと議論している。

珠洲市：

入居される皆様が準備される備品については、これから市長と協議していきたい。先ほど申したように、年内には皆様が入居される団地をお示しすることができる。そのため事業者が決まり、図面などができ次第、その団地への入居予定者の皆様には、なるべく早く間取りの情報や、準備していただくものをお願いなどを案内したいと考えている。

市長：

先ほど、自力で新築した世帯にも、もっと補助はないのかという話があった。その中で、本来、公営住宅という観点からすると、エアコンなどはご自分で付けていただくということなので、新築の補助制度を立ち上げる際にも色々と議論した。エアコンの設置費は、この新築の補助対象金額から差し引くべきではないか、いや、今やエアコンは常識であろうなど、色々と議論した結果、今のところ新築の補助金の中には、エアコンの設置費は補助対象金額に含めている。併せてご理解いただけたらと思う。色々と検討しながら進めている。

参加者：

二点お願いしたい。一点目は、子ども、児童・生徒のことである。以前から思っているのだが、各学校に仮設のグラウンドを整備していただいたが、小さい。そして、いつも使用頻度はどれくらいかと考えている。私が現役の時に、いかに体を動かすことが大事か、身をもって感じたことが何度もある。

子どもの場合、発達のためには非常に大事である。そのため、子どもの遊び場ができることは良いと思っている。輪島にも良い施設がある。それも早くできればよいが、ただ遊ぶだけでよいのか。学校の先生方は、体育の時間はどうしても体育館を中心に行っているのではないかと思う。そうすると、体育館とグラウンドでの運動は全く違う。様々な経験から話させていただくと、やはり外に出ることも大事だが、使用頻度が非常に低いのではないか。ということは、運動能力や体力という点で、2年7ヶ月が経つと非常に危惧している。

この地区はもちろんそうだが、これから学校で調査するなど、どれくらい運動場で運動しているのか、そういう調査が必要ではないかと思うこともある。せっかくあるのだから、もちろん学校によって使いやすいところ、使いにくいところはあるが、できるだけ晴れた日には、子どもたちの体力づくりや運動を指導していただきたい。指導項目があるわけだから、それをしっかり指導するよう、教育委員会が学校にしっかり指示することが必要ではないかと思い、体力低下などを心配している。

もう一点は、個人的にはあまり言いたくないのだが、私はいつもまだ復旧されていない所を歩いたり、図書館に車を置いてあちこち歩いたりしている。野々江公園のトイレは使えない。野々江公園を早く直してほしいと思っている。体育館側が直っているのは知っている。野々江公園の方を早くしてほしいと思いながら毎日歩いている。

市長：

野々江公園のトイレも同じように、なかなか発注しても、というところがあると思われる。

珠洲市：

先ほど市長がおっしゃっていた地区ごとで一括発注する工事の中に、野々江総合公園も入っている。ただし、元気の湯と同様に、ここのトイレの排水は武道館を通して、武道館の被害が酷い状況で、それをまず解決しなければならない。今、新たに配管を引っ張る検討はしている。発注については、先ほど市長がおっしゃった地区ごとの発注の中に入っている。ただ、いつまでにできるかという断言は今のところできない。

市長：

仮設グラウンドの使用頻度は説明できるか。

珠洲市：

仮設グラウンドの使用頻度は、正確なところは申し上げられないが、体育の時間などで、各学校で工夫しながら使っているという状況である。天候にもよるが、体育館を使うことが多いだろうと思っている。

防災から2年半が経過したが、珠洲の子どもたちの体力については毎年測定しており、令和7年度の状況で申し上げると、防災前の状況に近づいている。これについては、奥能登2市2町の子どもたち全てで測定しているが、珠洲の子どもたちについては、令和5年度並みに戻っているという結果が出ている。外で運動することについては、連合運動会として、子どもの数が少ない珠洲の子どもたちが合同で顔を合わせ、交流を深めながら運動する機会を新たに設け、楽しみながら体力維持ができるような取り組みを進めている状況である。

市長：

直地区全体としての新たなまちに向けて、こういったものが必要ではないか、こういうふうにするべきではないかといった、様々なご提言があればお聞きしたい。

参加者：

新たなまちのかたちについて、直地区のまちづくり協議会でも、要望を出すとしたら何かといった話題は出るが、要望を出しても維持管理のコストの問題で難しいとか、お金をそこだけにはかけられないといった理由で却下されることが多く、あまりアイデアが出ないような状態になっている。逆に、実現可能性が高いものはどのようなことか導いてくれる指針があれば、話しやすいと思うが、その辺はいかがか。

市長：

新たなまちのかたちの要望をしたけれど却下されたということだが、私はまだ受け取っていない。

参加者：

意見交換会などで発言した際に、その場で「それは難しい」と言われることが多い。例えば、暮らしを支えるエリアに関して、図書館を震災の学習ができる資料館的なものとしてはどうかというアイデアが出た際にも、難しいという話があった。細かいアイデアを挙げはするが、何を要望したらいいのかという状態になっている。集まってもそれほど活発に議論が進むわけでもなく、とりあえず今は地区の皆さんがどういうことで困っているのか、困りごとを拾い上げて、そこから議論を積み重ね、市に要望するものがあれば要望し、地区でできることがあれば地区で取り組もうという話になっている段階である。

市長：

遠慮せずに言っていただき、取りまとめてご要望いただければと思う。難しいと言われてもめげずに出していただければと思う。どういうご要望であればお答えできるかということではないと思う。全体を総合的に考えて非常に良いアイデアであれば、直地区の再生、また珠洲市全体の復興に大きな効果が得られるものであって、また、100億・200億といった費用をかけなくてもできるということも含め、総合的に考えていかなければならないが、皆さんでいろんなアイデアを出す中で、非常に良い知恵や提言が得られると思うので、とにかくいろいろと話し合いをして出していただきたい。

市役所の担当課では、直地区でのまちづくりの議論にはどういう形で関わっているのか。一緒に議論しているのか。

珠洲市：

環境建設課まちづくり係としては、直地区には職員の立場としては入っていないが、杉盛さんをはじめ市の職員も何人かいらっしゃって話をされているということと、地域おこし協力隊の方もいらっしゃるのではないかな。

参加者：

杉盛さんは毎回いらっしゃっている。地域おこし協力隊の方はいらっしゃってない。

珠洲市：

協議会ができているところには市の職員が顔を出す形で今動いている。

市長：

様々なアイデアを盛り込んでいただいて、キャッチボールができればと思うので、よろしくお願いします。

参加者：

要望するとしたら新しい学校だという話もあり、新しい学校は候補地に上がっていると思う。子どもの遊び場も野々江町にできる。要望をたくさん出さなくても、望んでいるような形になっているのかなというところも実際にはある。

参加者：

まちづくり協議会の件でお伝えしたいことがある。私もそのメンバーに入っており、月1回集まって話し合いをする際に、直地区としてこういうまちにしたいというイメージはあるが、珠洲全体の中で直地区が何を担うのかということが分かれば、意見が出しやすい。例えば、教育や子どものものを直地区が中心になってほしいとなれば、それに基づいた案が出しやすくなり、宝立地区が見付で観光を担うといったように、珠洲市全体としてのビジョンが分かれば、もう少し意見が出しやすいという話が出たことがある。

子どもの遊び場の候補地が上がっていた際、飯田町のまちづくり協議会でシーサイドの跡地に子どもの遊び場・公園を誘致したいという話を見たとき、子ども向けの施設がかぶっていると感じた。子どもの数は限られているので、各地区に何が求められているのかという珠洲全体のイメージがビジョンとして示されれば、協議会としても意見が出しやすいという考えが出たことがある。

市長：

その点に関しては悩ましく思っている。今日の会を開くにあたって資料を作成する際、まちづくりの担当職員が、直地区について「豊かな市民生活を支える子育て・教育・医療福祉が調和したまち」「子育て・教育・居住・福祉機能が立地し、豊かな市民生活を支える拠点性の高いまちをつくる」という方向性を出していたが、あえてそれを活字として載せない方がいいのではないかと判断した。なぜかという、市として直地区は「こういうまち」として進めていくと示すことが、本当に良いのかという点に関し、躊躇するところがある。

やはり地区の皆さんとまちづくり協議会で、直地区はこういうまちだ、こういうまちづくりを更に進めたいなど、皆さん自身が復興に向けたテーマとして描き込むべきではないかという考えがあり、あえて載せることを控えている。これが正直なところである。

行政として、蛸島地区はこういうまちに、飯田町はこういうまちに、若山町はこういうまちにと示すことが良いのかどうか。まずは地域の皆さんが直地区はどのようなまちなのかを議論し、再生・復興のためにどういうことを盛り込むべきか、あるいは新たな要素として何を盛り込むべきかをご議論いただくことが大事だと思っている。

参加者：

この資料は詳しく見やすいと思うが、家がなくなっているところもあり、直地区まちづくり計画なのに将来のまちが見えてこない気がする。ここに公営住宅ができたイメージ、直分団ができたイメージ、子どものエリアができた状態のイメージ図が示されれば、もっと具体的に感じられると思う。なぜこんなに家がないのかと思ってしまうので、直地区が将来どんなまちになるのかというイメージが持ちにくいと感じた。

市長：

改めて、本当にその通りだと思う。この資料についてもどうしようかと議論してきた。冒頭にも申し上げたが、復興公営住宅について、天神町については容積率の関係から50戸以上はつくれない。入居申し込みは市内各地区からあり、予定戸数を超過しているが、50戸までしかできないという状況である。そのため、今ここで何戸つくるかを示したくても調整中のところがあり、公営住宅も含めて広くご意見を伺う場として、今回は開催することにした。子どもの遊び場のイメージや復興公営住宅のイメージを掲載したが、もう少しイメージしやすい形で資料をつくることができればよかったと思う。今や更地になってしまったところもあり、現在の状況とは違う印象を与えてしまっているのは思う。俯瞰したイメージを示すことでわかりやすくはなっているが、これをより正確な図にしようとするのが相当難しいかと思うがどうか。

珠洲市：

今回は見やすいよう俯瞰図として角度をつけて工夫したが、どこが更地になっているかを全て網羅した図面の中で作成したわけではないため、いただいたご意見を全て満たすところまでは難しいと思っている。

珠洲市（コンサルタント）

技術的な補足を申し上げる。家の形については国土地理院が出している国土基盤情報図を使用して作成している。そのデータは珠洲市の場合、被災前のデータであり、被災前の建物がそのまま表示される形になっている。どの建物が残っていてどこがなくなっているかという正確なデータが現在存在しないため、全面的に表示している状況である。建物を消すと全て消えてしまうため、消し方等についてはもう少し検討し、皆さんにわかりやすい資料となるよう工夫していきたい。

市長：

受け取る側の感じとして、例えば今年度の新たなまちのかたちの意見交換会は直地区が皮切りで、この後、宝立・蛸島・正院などでも行う。皆さんが受け取った感じとして、以前の街並みが書き込まれたマップをベースにしていることは良いか、良くないか。

参加者：

良くないと思う。

市長：

現状を正確に把握することも難しい。表示の仕方を考える必要がある。

参加者：

図について岩坂町はどこにあるのか。

市長：

できるだけ復興公営住宅の2か所が入るように作成した。岩坂町が入っていないことは、今日ここで気づいた。大変申し訳ない。これからまちづくりを考えていく上ではもちろん入っていなければならないので、重々気をつけながら進めていきたい。よろしくお願いします。

市長：

他にございますか。よろしいですか。

今年度中に復興公営住宅の調整も図った上で、再度このような会を開きたいと思う。まちづくり協議会が月1回開かれているとのことで、どのような形で要望するかということも含め議論を重ねていただき、キャッチボールをしながら、さらにプランを考えていきたい。

遅い時間まで、暑い中、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

以上